



柿崎区地域協議会だより



発行：柿崎区地域協議会 事務局：柿崎区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL025-536-2211

バス路線廃止に伴う代替交通を検討

上越市は、『第2次上越市総合公共交通計画』を令和2年3月に策定しました。本計画においては、柿崎区内のバス路線の黒岩線及び水野線において、本年度中に乗降者数が規定の数を満たさないときはバス路線を廃止する、との見解が示されています。

柿崎区地域協議会では、廃止が見込まれる路線の代替交通について、今後どのようにするべきかの検討を重ねてきました。まず、廃止バス路線の地域住民へのアンケート調査を実施しました。結果については、前号でお知らせしたとおりです。

また、路線の廃止後、住民の足として最適な交通手段にどのような方式があるのかを検討するため、出雲崎町、魚沼市入広瀬地域、妙高市長沢地区及び上越市三和区の視察を行いました。これら先進地視察を踏まえ、地域協議会（地域の交通を考える会）では、以下の検討結果を出しました。

(1) 住民団体等が、『上越市住民主導型コミュニティ交通事業補助金要綱』を運用した場合、交付される補助金だけでは運営が成り立たず、地元住民の負担が大きくなるなど課題が残る。

(2) 住民団体等が、バス・タクシー会社に運行を委託した場合、委託金額が高額になり、補助金では賄えず多額の赤字が発生するおそれがある。

(3) 地域の住民団体により組織された団体の運営による『交通空白地有償運送』方式を取り入れることが最良の方法ではないか。

これら代替交通手段の実現のために、は相当な時間と労力・組織力が必要であり、柿崎区地域協議会としては柿崎まちづくり振興会様にお願ひするものが最良である、との結論に達しました。

7月27日(火)に、柿崎区総合事務所、柿崎区地域協議会から柿崎まちづくり振興会様に依頼書をお渡ししました。柿崎区地域協議会では、上越市長へ



「意見書」あるいは「提案書」を提出し、行政に協力、助言を求めようと検討してきました。この方針に対し、上越市からは、柿崎区地域協議会が令和元年8月に「柿崎区内における公共交通の在り方に関する意見書」が市へ提出されており、それを契機に互助・共助の検討が始まり、すでに地域協議会（地域の交通を考える会）が交通政策課及び自治・地域振興課と協議を行っていることから、改めて意見書または提案書を市へ提出してもらわなくともよい、という助言がありました。当会では、

(1) 柿崎区においては、今後代替運行についての検討に入るため、路線バス廃止について時間の猶予をいただきたいこと。

(2) 柿崎まちづくり振興会が代替運行に向けた検討を開始した場合には、指導・助言をいただきたいこと。

(3) 運行車両の確保のための補助金申請手続き、車両の維持管理に対する経費と運行経費・人件費等の補助金増額のための検討をいただきたいこと。

以上3点について上越市へ依頼しました。

黒川・黒岩ふれあい祭り (16ピース)

これまで 8 年間実施してきた「黒川・黒岩ふれあい祭り」もコロナ禍で昨年は中止、今年も開催が危ぶまれました。しかし、世の中も、地域も元気がない今こそ、これまでと同じことはできなくても、できることをやってみんなで元気になろうよ、との思いから活動を開始しました。地域住民の皆さま、企業の皆さま方からも賛同をいただきながら、花火の打ち上げをメインに準備を進めてきました。

8 月 14 日は残念ながら雨天延期となり 21 日の開催となりました。コロナ感染防止対策を講じながらわずか 1 時間のお祭りではありましたが、多くの方々からミュージック花火を堪能していただき、また頑張る気持ちになっていただけたなら幸いです。私たち 16 ピースのメンバーも、「感激した」「来年も楽しみにしているよ」など心温まるメッセージをいただき、来年こそは再び本来の賑やかな祭りを開催できればと願うばかりです。

この活動にご理解とご協力をいただきました皆さま、本当にありがとうございました。



下黒川地区夏まつり (柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」実行委員会)

「下黒川地区でもランタン上げをやってほしい」と、要請がありました。突然でもあり、相談・準備期間は 2 か月しかなく「できっこない」となるはずでしたが、「地域おこしのいいきっかけになる」と、夏祭りを行うことになりました。

オール下黒川で実行委員会を組織し、6 つの部が仕事を分担。お金は下黒川町内会長協議会と上越市地域活動支援事業だけが頼りの状況でしたが、スカイランタンは自己負担なしとした結果、88 名のよい子が参加してくれました。

下黒川らしさを出すために、「十三夜」をみんなで踊りました。多くの子どもたちが浴衣を着て参加しました。これは仮装をしたり、浴衣を着てきた人には「豪華商品が」というアピールが効いたみたいです。花火は、遠慮して小さめのものでしたが、ぎりぎりまでそばに行き腹に響く振動も楽しんでいました。地元のデュオ「H2」、頸北の太鼓集団も花を添えてくださり、地域活動支援事業のお陰で、8 月 21 日がコロナ禍での特別な日になりました。



令和3年度 地域活動支援事業 採択事業紹介（追加募集分）

(掲載は提案順)

No.	事業の名称	団体の名称
1	バレーボール普及活動事業	柿崎 J V C
ジュニアバレーボールクラブを立ち上げ、ボールやユニホームを整備しバレーボールの普及を図るとともに、練習や大会参加を通じてマナーや協調性・助け合いなど子どもの健全育成に寄与する。(補助額 89 千円)		
2	柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」事業	柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」実行委員会
柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」を計画し開催することにより、下黒川地区の活性化を図るとともに、下黒川地区の市民の親睦と融和を図る。(補助額 725 千円)		
3	生涯スポーツ・ボッチャ普及事業	柿崎まちづくり振興会
高齢者や障がい者・子どもの体力に合ったボッチャの普及を図ることにより、障がい者を含めた世代間交流、町内会単位の交流等に期待ができ、スポーツ年齢の拡大と地域の活性化につなげる。(補助額 422 千円)		
4	猿毛城址登山道整備事業	柿崎まちづくり振興会
猿毛城址登山道と山頂の伐木・刈払いを行い、多くの人から猿毛城址を認識し登ってもらうとともに、黒川・黒岩地区住民の地区の歴史・観光資源の再認識と環境整備・保存の意識向上を図る。(補助額 990 千円)		
5	音楽文化の醸成を図り地域を元気にする事業	自衛隊音楽隊 in 柿崎実行委員会
自衛隊音楽隊の演奏を通じて、市民の音楽文化の醸成と地域活力の向上を図る。また、自衛隊音楽隊による柿崎中学校吹奏楽部の演奏指導並びに交流により生徒の技術向上と意識の高揚を図る。(補助額 916 千円)		
計 3,142 千円		

※今年度は、当初提案された 9 事業（補助額 3,958 千円）と追加提案された 5 事業（補助額 3,142 千円）、合わせて 14 事業が採択されました。

地域協議会って、なぁ～に？

地域協議会は、さまざまな立場の住民の皆さんが、各区で課題となつていくことなどについて、より良い解決策を導きだしていくための話し合いを行い、地域としての意見を取りまとめ、市長に伝えるための役割を担っています。

○どんなことを話し合うのか。

地域協議会は、市長から意見を求められた案件（諮問）のほか、住民の皆さんが日常生活の中で改善が必要と感じているテーマについて自主的に話し合うことができます。また、自主的に決めたテーマについて審議を行い、意見を述べることもできます。

○なぜ地域協議会に意見を聴くのか。

例えば、公共施設の設定等を行う場合に、その区域の住民の皆さんの生活に及ぼす影響について、あらかじめその区の地域協議会の意見を聴き、政策判断の参考とするために行います。

○話し合ったことはどうなるのか。

地域協議会は、市長が地域の声を聴くために設置した機関（市長等の附属機関）であり、市長はその意見を尊重します。ただし、意見の内容や市の財政状況などから、市政に反映できない場合もあります。

○話し合いの内容を知りたいときは。

地域協議会は、どなたでも傍聴できます。他区からの傍聴もあります。開催日程は、防災行政無線でお知らせします。詳しくは総務・地域振興グループへお問い合わせください（TEL 536-2211）



7月29日 柿崎まちづくり振興会主催 合同研修会

毎年、この時期に行われる柿崎区総合事務所並びに地域協議会との合同研修会に参加しました。新潟県協議会議員の楡井辰雄氏、上越市協議会議員の武藤正信氏、柿崎区地域協議会会長の吉井一寛氏、柿崎区総合事務所長の市川重隆氏の4人からそれぞれ20分ずつの現状報告をいただき、質疑応答・意見交換となりました。

上越市、柿崎区における課題について、さまざまな角度からお話をいただき、課題は山積しているとの印象を受けました。中でも共通しているのは、少子高齢化と人口減少です。しかも人口減少は、想定しているよりも速い速度で進行していることです。人口減少に歯止めをかける特効薬はありませんが、いかにその減少速度を抑えていけるかが課題とのことです。

柿崎区地域協議会では、現在、「地域の交通を考える会」と「柿崎空き家活かそうプロジェクト」の2つの委員会を立ち上げ、課題解決に向けて現状の調査・検討を進めています。この取り組みが、人口減少の速度を遅くするための一助になるのではないかと改めて感じました。

(片桐 充)



柿崎区地域協議会の主なうごき(令和3年7月~令和3年9月)

会議名	開催月日	主な内容
第10回地域の交通を考える会会議	7月5日	バス路線廃止に伴う代替運行の検討
第5回地域協議会	7月20日	地域活動支援事業(追加募集分)プレゼンテーションの開催、審査及び採択 柿崎区内の公共交通の在り方について
第8回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議	7月27日	柿崎空き家活かそうプロジェクトの検討報告について
第6回地域協議会	8月17日	諮問: 上越市過疎地域持続的発展計画(案)について
第9回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議	8月24日	視察研修の実施について
第7回地域協議会	9月13日	答申: 上越市過疎地域持続的発展計画(案)についての諮問に対する答申について

【編集後記】

コロナ禍で二度目の夏、里帰りは引き続き自粛で少し寂しい夏でしたが、「柿崎時代夏まつり」は、日や場所を分散して開催されました。地域活動支援事業は、12の団体から事業が提案され、感染対策を行いながら活動が進んでいます。

ワクチン配布の遅れや、接種時の混雑など解決すべき課題はありますが、必要な量は確保されていることです。長引く自粛に疲労感も募りますが、私たちには、風雪に耐えて春を待つ力があります。誤った情報に惑わされず、思いやりと支え合いを力に困難を乗り越えましょう。

(小出)

編集委員長 片桐 充
編集委員 岩野秀樹 薄波清美

貝谷雅子 片桐宏樹
小出祥世 小山 慶

